火の消へた様に寂れた工場町の一帯

争議の巻添を喰つて毎月極つて落ちて居た二十万円の金がピッタリと止まつた戸数三千、人口一万四千の土生、三庄、二ヶ町村は火の消へた様な静けさで、老人も青年も争議の話で持切り工場町に金盛を誇つた料亭、飲食店は、殆んど全部戸を鎖し全く廃業同様である、更に市内の商家は工場町の常として掛売りで月給日勘定となつてゐるけれども一ヶ月に亘つての争議の為め月給日が来ても今更現金とは云へず大いにこぼして居る。その為め商店の打撃はかなり強く運転資金が廻らぬのと、争議の前途の見越が就かぬ為め新規に商品を仕入れず売切れるに委してゐるので飾窓も商品箱も多くは空でホコリとシミに汚れて、このまゝ推移すれば多くの商店も戸を鎖すであらう。尚労働者の郵便貯金其他の貯蓄も豫想外に減つて居らず争議困難部以外の職工は野球、魚釣、子供の守等をして奈落線々たる所を見せてゐる。

尾道市も飛沫を受けて大打撃 向井市長来る

備後因島の労働争議は五月十四日勃発以来四十日に亙んとし全国的記録を作つて居るが所在地土生、三庄町の疲弊困憊は主商取引を有し米麦穀類貴金属類其他煙草、日用品に至る迄総ての物資を因島に供給してゐる尾道市が受くる影響と損害も多額に上り同月末の取引勘定は双方商店間にゴタ〳〵を生ずるものと見られ、今から商品取引を中止してゐる向もある始末に市当局としても対岸の火災視してゐる訳にも行かず何等かよい調停策もがなと向井市長は二十日因島方向に出向く事になつてゐる因に尾道から因島に供給する物資の見積りは一月六、七千円に上るであらうと。

以て其一般を知るを得べし。

先に声明したるが如く両工場職長以下資格者百二十五名(内外三十名事故欠勤)は本日より愈々出勤せり。此日普通職工二名死を堵して出勤したるは特筆に足る。

かくて入場せる資格者及び所員に対し笹子工場長並に西牧造機部長は一場の訓示